

令和 6 年 4 月 19 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
B グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
511001

代表者	校 園 名 :	大阪市立堀川小学校
	校 園 長 名 :	衣笠 博政
	電 話 :	6358-3336
	事務職員名 :	西 麗美
申請者	校 園 名 :	大阪市立堀川小学校
	職 名 ・ 名 前 :	首席・流田 賢一
	電 話 :	6358-3336

令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	子ども主語への学びの転換 - 国語科の指導の系統と個別最適な学びをめざす授業のあり方 -			
3	研究目的	テーマに合致した目的を横立して記載してください。 1. シンプルな授業づくりとなり児童主体の学びへと転換するために、指導の系統を意識した学習内容の精選 2. 児童が学びをメタ認知し、自己調整できるためのポートフォリオの開発 単元始一学びの変遷一単元末を一覧できる方法 (デジタルとアナログ) 3. 国語科の個別最適な学びを理論研修、整理、提案、検証 個別最適な学びを実施する場面を整理、単元のどこで実施できるか実践提案 4. 子ども主語へ学びが転換することで学ぶ意欲が向上と学力の向上の相関関係を検証 5. 教材分析一公開授業を同一教材でセット開催することで教員の指導力向上 6. 公開研究会を複数回開催し、賛同者を増やし全国に研究の輪を拡大			
4	研究内容	(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 学習指導要領の改訂、教科書の改訂を経て、令和の日本型教育の答申が出された。これからの社会で活躍するために必要な力を学校教育の中でどのように育成するのが課題である。それには従来型の授業から、学習指導要領の理念である子ども主語への学びへと転換する必要性を強く感じているため以下の研究を推進する。 ①【指導の系統を意識し、授業内容をシンプルに】 国語科は1つの教材から学ぶことは多くある。そのため、この教材で何を学ばせたいのかを指導者が系統の中ではっきりと持つことでシンプルな授業となる。授業がシンプルになれば、児童が自ら学ぶ方向性が分かりやすくなると考える。教科書教材をベースに学ぶ内容を整理していく。 ②【ポートフォリオの開発 単元始一学びの変容一単元末まとめ】 単元始に問いを持ち、学びを駆動させる。単元末の学びは振り返りにより、何を学んだのかを整理する。その過程で学びの道筋や問いの変化を書き留めるための場を作る。これら3つの学びの足跡を整理することで、児童が自らの学びをメタ認知し、学びを調整するためのポートフォリオを研究開発する。 ③【国語科の個別最適な学びを整理・提案・検証】 国語科の個別最適な学びの理論を学び、実践を通して授業提案する。自ら学ぶためには、指導の系統は欠かせない。既習の活用、方向性の共有、互いの学びを確認、ゴールに向かうまとめなど、具体的に個別最適な学びを整理し提案する。また、児童アンケートや学力テスト、教員アンケートから児童の学びの姿を検証する。 ④【公開研究会で提案 学びの輪を広げる】 教材分析・公開授業を同じ教材で公開することで、分析と実践を学び合う。個別最適な学びの理論だけでなく、実際の子どもの姿から具体的なめざす児童像を議論する。提案内容に賛同する参加者を増やすことで、研究内容が広まっていくと考える。			
		(2)継続研究 [2 年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する 【成果】令和の日本型学校教育を実現するための授業デザインの提案ができた。児童の学力向上・意欲向上につながった。多数の参加者があり、本研究が広がった。【課題】めざす子ども像、授業像の定義をする。価値ある問い・学びを自覚化する振り返り・自己評価のあり方を検討する。 上記を踏まえて、(1)の研究内容を継続し、次のことに取り組む。【問いと振り返り】価値ある問いを生み出し、効果的な振り返りの方法を検討する。【個別最適な学び】授業デザインの改善に加え、授業観、児童観を整理する。【公開】教科書改訂に伴い新教材を分析し、公開研修会を設定する。			
		(3)継続研究 [3 年目]			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 【研究企画会】 研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 【国語研修会①】 ・研究に関わる参考文献を検討する。年間計画を策定する。 ・児童アンケート、教員アンケートを作成する。 【読書会】 研究テーマに関わる本を選定し、年間2冊の読書会を設定する。 ※本を1章ずつ読み進め、毎週火曜日に開催する。理論を支える学びの場とする。 【学習会】 ※新教材分析、複数教材検討 ※年間を通した会（以下省略）</p> <p>5月 【国語研修会②】 児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 低中高学年部会に分かれて、教材分析と授業化の研究</p> <p>【理論研修会①】 講師 元筑波大学附属小学校 青木伸生先生</p> <p>6月 【国語研修会③】 教材分析公開に向けた分析会</p> <p>7月 【国語研修会④】 複数教材活用のパターンを知識技能と思考判断表現で分類整理する。 2学期の公開に向けて教材分析と授業化について検討する。 【がんばる先生支援 教材分析公開】 低中高の新教材を参加者と分析・教材分析提案 指導助言 明星大学教授 白石範孝先生</p> <p>8月 【「全国国語授業研究会」 参加】 【先進的研究校 公開授業研究会 参加】</p> <p>9月 【理論研修会②】 講師 元筑波大学附属小学校 青木伸生先生</p> <p>10月 【国語研修会⑤】 指導案検討会、研究内容提案作成</p> <p>11月 【がんばる先生支援 研究発表会①】 公開授業・研究協議（みどり小） 定番教材で実施 指導助言 明星大学教授 白石範孝先生 【がんばる先生支援 研究発表会②】 公開授業・研究協議（堀川小） 教材分析研究会①と同教材の新教材で実施 指導助言 明星大学教授 白石範孝先生 【福岡大学附属福岡小学校 教育研究会 参加】</p> <p>12月 【国語研修会⑥】 指導案検討会、研究内容提案作成 【教材分析研究会②】 研究提案、教材分析提案、講師 明星大学教授 白石範孝先生</p> <p>1月 【国語研修会⑦】 実践のまとめ</p> <p>2月 【筑波大学付属小学校 学習公開 参加】 【国語研修会⑧】 児童アンケートの実施・分析 【国語研修会⑨】 ・学力経年調査の結果分析 ・教員アンケートの実施・分析 ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月 【国語研修会⑩】 研究のまとめ作成、次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的研究校の研究会への参加 ・教材分析会、公開授業研究会への外部講師の招聘 ・理論研修会への外部講師の招聘
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。理由 <input checked="" type="checkbox"/> 変更する。【児童】学び方を変える（個別に学習）ことの検証、【教員】授業観、児童観を定義し、実践の中で提案し参加者に評価してもらう</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ポートフォリオ作成により、児童の学びの方向性がはっきりとする。単元末には学んだ内容と次への学び方を振り返り、自らの学びをメタ認知することができる。学び方を変革（個別に学習）することで、児童の学力・学習意欲が向上する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査国語科の「基礎・活用」（学力）で大阪市平均を超える。学びを振り返り「自分には力がついた」（学力のメタ認知）「今までの学習を思い出し、活用できないかと考える」（既習の活用）と回答する児童の割合が8割以上となる。そして、「今までの学びとの違いをインタビュー調査」（学びの変容）し、児童の学び方が学習意欲や学習内容の理解に与える影響を検証する。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>国語科の個別最適な学びとは、共通のゴールに向かって自ら決めた方法により読み深める学びである。自ら選択・判断・追究することは、児童の意欲の向上、学ぶ力の向上につながる。受け身の学習ではなく、自ら学習するためポートフォリオを見返しながら学びを調整する姿も期待できる。子ども主語の学びは、学びの楽しさを実感することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査国語科の「主体的に学習に取り組む態度」が大阪市平均を超える。児童アンケートの「課題解決に向けて最後まで取り組んだ」「どう学んだらいいかを考えた」「問題に出会った時に問いを持ち考えることができた」「学ぶことは楽しい」の割合が9割以上になる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>教科の本質、教材で学ぶ本質を見極めることでシンプルな授業展開となるため、教材分析力が向上する。大学教員や先進的研究校教員から今後求められる指導について学ぶことができ、児童主体の学びへと転換することができる。理論と実践をつなげて学ぶことができるため、児童の具体的な姿をもとに研究を進めることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>研究メンバーへのアンケート結果から、指導力の向上についての肯定的割合が9割以上となる。公開授業研究会では、実際の児童の学びを見てもらい参会者の満足度が8割以上となる。系統を意識した学びを提案し、「系統を意識した授業を実践している」の割合を研究会への複数回参加者の割合が向上する。このことで研究の広がりを検証する。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>本研究会で個別最適な学びの授業観、児童観を定義し、提案する。参加者から提案内容について賛同を受ける。国語科での個別最適な学びの実践例が少ないため、本研究会での実践例提案や研究授業での提案を参考に実践が広がる。単元のどこに個別最適な学びを位置付けるかや、児童の学びの方法を分類整理する。研究会で以上のことを提案し、参会者に個別最適な学びが広がっていく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>授業観、児童観を提案し、参加者アンケートで是非を問う。教科の本質、教材で学ぶ本質をまとめたものを研究会で参会者に配付する。参会者アンケートの「自らの実践に活用したい」が8割以上となる。そして、参会者アンケートの「個別最適な学びを実践している」の割合を研究会への複数回参加者の割合が向上する。このことで研究の広がりを検証する。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="454 940 1380 1008"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 11 月 8 日</td> <td>場所</td> <td>堀川小学校</td> </tr> </table> <p>◆waku^{x2}.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="454 1086 965 1153"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 2 月 21 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>令和6年7月27日教材分析公開（堀川小）、令和6年11月1日公開授業研究会（みどり小） 教材分析研究会と公開授業研究会をセットで開催する。 研究会の講師として、他校に取り組み内容を広める。雑誌や本に執筆することで、取り組み内容を広める。</p>	日程	令和 6 年 11 月 8 日	場所	堀川小学校	日程	令和 7 年 2 月 21 日
日程	令和 6 年 11 月 8 日	場所	堀川小学校					
日程	令和 7 年 2 月 21 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>中央教育審議会が「令和の日本型教育」が答申された。資質・能力の育成のために多くの授業改善が示されている。中でも、個別最適な学びは今後の授業改善でキーとなるものだと考えている。GIGAスクール構想で1人1台端末も配備された。国語科の中でも、授業の中や振り返りとして活用が期待されている。1年目の研究として、児童に確かな力をつけるための個別最適な学びとは一体何かを1年目に解明することを願っている。この研究が、大阪市や国語教育へ大きな提案性のある研究へとつながるだろう。昨年度の研究では優秀な研究に選定された。研究メンバーでの学習会や公開研究会を丁寧に重ねており、大阪市や全国の先生方へ研究の成果を還元している。ぜひ、本研究を推進するために申請を認めていただきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>この1年で「令和の日本型学校教育」「個別最適な学び」という言葉が研究会や書籍のタイトルとして多く並び浸透した。ただ、その実態が何か分らず言葉に踊られ、表面的な内容しか掴めない今までの改革は繰り返したくない。昨年度の公開には多くの参観者があり、終了後に問合せが続いた事実から本研究の必要性は明らかである。この参観者から評価に加え、児童の学びも変容しつつある。授業観、児童観を整理し、教育改革の本質を提案できるようにするためにも、引き続き研究を深める必要がある。授業の基本である教材分析と公開授業での子どもの姿をセットで研究する地味で地道な研究である。引き続き、研究を推進するための力を与えてほしい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						